

「銅のカギ語」資料

(ベーシックレベル)

目次

「イメージと記憶」

- add について。 「add の語法と派生表現」
- apply について。
- appreciate について。
- barrier について。
- bear について。 「bear の『核』のイメージ」
- beat について。
- belong について。
- blame について。 「blame の語法」
- blind について。
- borrow について。 「『借りる』『貸す』のいろいろ」
- circle について。 「語源～circ」
- close について。
- collaborate について。
- command について。
- company について。
- compel について。 「語源～pel / puls」
- compose について。
- confess について。
- conscious について。 「〇〇-conscious」
- consider について。 「considerable / considerate」
- construct について。 「語源～struct」
- content について。
- control について。 「名詞の control を用いた決まり文句」
- courage について。 「語源～en[em]」

- describe について。 「語源～scribe / script」
- express について。 「語源～e(f) / ex」 「語源～press」
- everywhere について。 「意外な接続詞」。
- fix について。
- flash(光る)と flush(流れる)について。
- flat について。
- fortune について。
- generous について。 「語源～gen」
- interactive について。 「語源～inter」
- literacy について。 「literature の類語は要注意！」
- load について。
- measure について。
- medium について。
- mention について。 「自動詞と間違えやすい他動詞」
- note について。
- object について。 「to+doing～ の慣用表現」
- occupy について。
- offend について。
- owe について。 「owe の語法」
- partial について。
- possess について。
- proceed について。 「語源～ceed」
- prospect について。 「語源～spec / spicu」
「respectable / respectful / respective の覚え方」
- recent について。 「recently / lately / nowadays / these days の使い分け
方と覚え方」
- reduce について。 「語源～duce / duct」
- result について。 「result from と result in」
- retain について。 「語源～tain」
- root について。
- scarcely について。 「『～するとすぐに…した』を表す構文」
- servant について。 「serve の『核』のイメージ」
- shoot について。
- spell について。
- spot について。
- stick & stimulus について。 「語源～sti」

- straightforward について。 「語源～ward(s)」
- strain について。 「語源～str」
- substitute について。
- suggest について。 「suggest の語法」
- suppose について。 「suppose の頻出語法」
- suspect について。 「2つの『疑う』。suspect と doubt の使い分け方」
- temper について。 「〇〇-tempered」
- tender について。
- terror について。
- thief について。 「いろいろな『泥棒』」
- trace について。
- treat について。
- wise について。 「wise と clever」
- unite について。 「語源～uni」
- wound & injure について。 「傷つける」

このレベルでおさえておきたいその他の語

Part I

- 1.across
- 2.afraid
- 3.almost
- 4.although
- 5.ant
- 6.beside
- 7.beyond
- 8.both
- 9.each
- 10.else
- 11.fingerprint
- 12.Greek
- 13.journey
- 14.「lie と lay / rise と raise の覚え方」
- 15.lightening
- 16.「2つの lower」
- 17.mere
- 18.misunderstand
- 19.overnight
- 20.overseas
- 21.piece
- 22.rather
- 23.ready
- 24.run
- 25.squirrel
- 26.uncover
- 27.whether
- 28.wildlife

Part II

- 1.improve
- 2.find
- 3.experiment
- 4.species
- 5.general
- 6.「prove の語法」
- 7.prefer 「語源～fer」
- 8.aspect
- 9.therefore
- 10.identify
- 11.divide
- 12.characteristic
- 13.phenomenon
- 14.specific
- 15.nevertheless
- 16.thereby
- 17.present
- 18.latter
- 19.translate
- 20.cognitive
- 21.primary 「語源～prim / prin」
- 22.disappoint
- 23.interpret
- 24.「differ[be different]の語法」
- 25.manufacture
- 26.district
- 27.procedure
- 28.opponent
- 29.reputation
- 30.capable
- 31.nuclear
- 32.contrary
- 33.hemisphere
- 34.attribute 「attribute の語法」

35.prefecture

36.geography 「語源～geo」

37.administration

38.will

「イメージと記憶」

記憶に「イメージ・連想」が大きな役割を果たすことについて、以下の紛らわしい語の覚え方でそれを説明してみましょう。

(1)rust と lust。

lustと rust という単語があります。lust は「愛欲・欲望」、rust は「さび・さびる」という意味です。

(ex) My lust for her disturbed my sleep at night.

夜は彼女への肉欲にさいなまれて眠れなかった

The machine is covered with rust.

その機械はさびがついている

覚え方は簡単で、lust(愛欲)の l と love(愛)の l が同じL(エル)つながりになるところを引っ掛かりにしましょう。

rust の方は「さび」というのは(特に鉄さびは)赤いですね(「赤さび」などという言葉もある)。この red(赤)のイメージで、rust と red の R(アール)つながりをひっきりにして覚えてしまえば良いのです。

(2)clash と crash と crush。

まず crush ですが、末尾の ush は push(押す)とスペルが同じ。そこから ush つながりで crush は「押しつぶす」「圧縮する」と覚えてしまいましょう。

(ex) I carelessly stepped on the orange and crushed it.

うっかりそのオレンジを踏んでつぶしてしまった

次に ash で終わる語は「粉々に砕け散る」系が多いのです。代表格は smash(粉碎する)、splash(水が飛び散る)です。

さてそこで clash と crash ですが、clash の l と glass の l が同じであるのを引っ掛かりにしましょう。

※実際 clash の語源は「ガラス(金属)などがぶつかるガチャンという音」に由来する。

そこから「ガチャンという音(がする)」「ガチャンと(音を立てて)ぶつかる」という(名詞・動詞の)意味が生まれます。

(ex) a clash of cymbals シンバルがじゃ〜んと鳴る音
A car clashed against the wall. 一台の車が塀に衝突した
Their swords clashed. 彼らの剣ががちっと切り合った

clash は衝突の「ガッチャーン」という「音」を強調する語なのです。
更に「意見等が衝突する」も clash です。感情的に両者がガッチャーンと(音を立てる
かのように)激しくぶつかり合うイメージを持つといいでしょう。

(ex) Their interests clash with ours. 彼らの利害は我々と一致しない

最後に crash ですが、これは「(車・飛行機・列車等が)衝突する」という意味です。
これについては car crash でセットで覚えてしまうといいでしょう。car と crash は
r と a の順が逆なだけでスペルが似ています。これを引っ掛かりにして覚えてしま
ましょう。

A dump truck crashed into the train. ダンプカーが列車に衝突した
The airliner crashed into a mountainside. その旅客機は山腹に墜落した
Luckily no passengers were killed in the train crash.

幸いにも列車の衝突事故で乗客に死者は出なかった

※上例のように「(車・列車などの)衝突(事故)」「(飛行機の)墜落、不時着」という
名詞の意味もある。

clash は衝突の「音」(又は「衝突」そのもの)を強調するのに対して、crash は
(衝突した結果)「大きく壊れる」ことを強調するのが特徴。

●add について。

add の語法と派生表現

(1)add の語法

①[add A to B] 「AをBに加える」

(ex) I added a little sugar and milk to my coffee.

私はコーヒーに砂糖とミルクを少し加えた

②[add to A] 「Aを増やす」 =increase A

(ex) This may add to your appetite. これで食欲が増すかもしれません

③[add up to A] 「合計でAになる」 「結果としてAということになる」

(ex) Their activities add up to a crime in Japan.

彼らの行為は日本では犯罪ということになる

(2)add の派生表現

①[in addition] 「おまけに、その上」 =besides, additionally, furthermore, moreover

(ex) He had to pay 100 dollars in addition.

彼はさらに100ドル払わなくてはならなかった

②[in addition to A] 「Aに加えて」 =besides A, to add up to A

(ex) In addition to my misfortunes, I lost my girlfriend.

さらに不運なことにぼくはガールフレンドにふられてしまった

●apply について。

これは「アプリケーション(ソフト)」から類推できる。パソコンやゲーム機のアプリケーションソフトとは、「そのパソコンやゲーム機を使って[応用して]様々なことができるソフト(ウェア)」のことだ。

名詞形は application で「①申し込み(書)、応募 ②適用 応用」。applicant は「志願者」。

また形容詞形は applicable で「当てはまる、適用[応用]できる」だが、服の穴があいた

ところにあてる「あて布」のことを「アップリケ」と言う(アップリケは元々フランス語)。

※アップリケは現在では純粋に装飾用として用いることが大半。

ここから「あてることができる → 当てはまる」「充当できる → 適用[応用]できる」とイメージをつなげよう。

●appreciate について。

appreciate には「～を正当に評価する」以外に、「(芸術作品を)鑑賞する」「(物事に)感謝する」「(人の)良さを認める」といった様々な意味があるが、これらはすべて「～の良さがわかる」という appreciate の根っこ(『核』)のイメージから(枝分かれした結果として)生じたものに過ぎない。

※このような効率的・体系的な多義語のマスター法については「語感で覚える重要英単語」(青灯社刊)を参照せよ。

●barrier について。

日常生活で「バリアフリー」という用語も一般化しているが、これは「障害者や高齢者の生活に不便な障害を取り除こうという考え方」のことで、②の意味に相当する。

※〇〇-free で「〇〇がない」という意味になる。sugar-free は「砂糖が入っていない」。oil-free は「油分が入っていない」ということ。

●bear について。

bear の『核』のイメージは「～を持つ、持ち運ぶ」。

have, carry, produce に近いが、bear にはそこに何らかの「困難さ」や「苦労」が伴うというのが原義。つまり「(重さ・苦しみに耐えて)持つ・持ち運ぶ、生み出す」というのが元々の意味。

まず「持つ」から「持っている」「身につけている」「ついている」という意味が出てくる。目的語には「武器・肩書・名前・性質・特徴・傷跡・関係」等、様々なものが来る。

(ex) The terrorists bore arms. テロリストは武装していた

會 bear の活用は bear - bore - born(e)。

Her face bore the signs of tears. 彼女の顔には涙の跡があった

This document bears no date. この文書には日付がない

These two incidents bear no relation to each other.

この2つの事件は相互になんら関係がない(関係を持たない)

He bears no resemblance to his father. 彼は父親に全然似ていない

また「持つ → (考え・思いなどを)持つ、抱く」という意味が生まれた。

(ex) bear affection for him 彼に愛情を抱く

Bear what I say in mind. 私の言うことを覚えておきなさい

更に「持つ」から「(重さを)支える」「(費用を)持つ、負担する」「(責任を)負う」という意味が生まれた。

(ex) This bridge bears only ten tons. この橋は10トンしか支えられない

Will the ice on the river bear my weight?

川の氷は私が乗っても大丈夫だろうか

I will bear the responsibility. 私がその責任を負いましょう

また「重さ・苦しみに耐えて持つ → 持ちこたえる、耐える」という意味が生まれた。

(ex) I cannot bear this treatment. この扱いには我慢できない

She couldn't bear her children to go hungry.

彼女はわが子が飢えるのに耐えられなかった

The movie does not bear seeing twice. その映画は二度と見る気になれない

そして「持ち運ぶ」という carry とほぼ同じ意味がある。

(ex) The sweet scents of roses were borne on the wind.

バラの甘い香りが風に乗って来た

He came bearing a large bunch of flowers.

彼は大きな花束を抱えてやって来た

bear gifts to one's senior 上役に贈り物を持って行く

Her voice was borne upon the wind. 彼女の声は風に運ばれていった

「子を持つ → ~を生む、生み出す」という意味にもなる。

(ex) She bore a child when she was fifteen years old.

彼女は15の時に子供を産んだ

そこから転じて「(花・葉・果実等を)生じる、つける」「〈場所が〉(作物・石油等を)

産出する」「(結果・利子等を)生み出す」「(利益・賞賛などを)引き出す、うける」という意味も生まれた。

(ex) This tree bears fruit. この木は実がなる(をつける)

The bond bears interest. この債権は利子を生む

This soil has borne abundant crops. この土壌からたくさんの穀物が取れた

●beat について。

同じ勝つでも beat[defeat] が「人」を目的語に取れるのに対し、win は「試合」「賞品[金]」を目的語に取る。win A(人) という言い方はない(「負ける」という意味の lose も「試合」のみを目的語に取る。lose[win] the player とは言わない)。

●belong について。

belonging で「持ち物、身の回りの品」という意味になるが、これは「～に所属しているもの → ～の持ち物」となる。belongings なることが多い。

belonging はまた「所属しているということ[関係] → 親密な間柄、切っても切れない縁、絆」という意味になることもあり、a sense of belonging は「身内[帰属]意識、一体感」。

●blame について。

blame の語法

①[blame A(人) for B(理由・責任など)]

1. 「Bの理由でAを非難する、責める」
=accuse A of B
=charge A with B
=condemn A for B
=criticize A for B

(ex) I blamed him for having left there.

そこを離れたことで彼を責めた

=I accused him of having left there.

2. 「BをAのせいにする」 =blame B on A
=charge B on A

(ex) The teacher blamed me for the accident.

先生は事故の責任を私のせいにした

=The teacher blamed the accident on me.

- ②[blame A(責任・結果など) on B(人・原因)] 「AをBに押しつける、せいにする」

(ex) Don't blame the failure on me.

失敗を私のせいにならないでください

- ③[A be to blame (for B)] 「Aは(Bに対して)責任がある」

=A is responsible for B

(ex) He is to blame for the accident. その事故の責任は彼にある

●blind について。

(カタカナ英語の)「ブラインド」は名詞の blind の意味と、「目で見えにくい」という意味で用いられる(「木がブラインドになっている」などと言う)。ただ Love is blind. (愛は盲目)といったフレーズを耳にしたことがある人は多いはず。

●borrow について。

「借りる」「貸す」のいろいろ

(1)「借りる」

①borrow: (無料で) 借りる [通例場所の移動を伴う] (ex)本など

※borrow A(物) from B(人):BからAを借りる

②use : (無料で) 借りる [その場で] (ex)トイレ、電話など

③hire : (有料で) 借りる [短期間]

④rent : (有料で) 借りる [家・土地を長期間]

※本来短期間の借りは hire だが、アメリカでは長期・短期

にかかわらず rent を用いることが多い。特に「土地」に関しては lease も用いる。

⑤owe A(人) B(金) : AにBの借りがある、AにBを借りている
=owe B(金) to A(人)

(ex) I owe my brother \$5. 兄に5ドル借りている
=I owe \$5 to my brother.

(2)「貸す」

①lend : 物を貸す場合には無料で、金を貸す場合には利子を取って貸す場合にも用いられる。=lcan

※lend A(人) B(金・物) : AにBを貸す
=lend B(金・物) to A(人)

②rent : 有料で物や家屋、車などを貸す場合に限られる。=let out

※rent が「借りる」「貸す」どちらの意味で使われているのかは文脈で判断する。

(ex) I rented my room to a student during the summer vacation.
私は夏休みの間、部屋を学生に貸した

③hire : 特定の目的に短期間貸す場合。(ex) 建物、車、衣装等

●circle について。

語源～circ

circ がつく語は「円、輪」でつながる。circuit の「①(レース用の)周回路 ②(電気の)回路」、circle の「①サークル、同好会 ②仲間、集団」という意味も「みんなで輪になる」というところから由来する。

circus は「サーカス」。これはサーカスは(観客がどの位置からも演技がよく見えるように)円形の場所を作って行われるから。circulation は「①循環、流通 ②(新聞などの)発行部数」。これは「ぐるっと行き渡る」から。

circumstance は「状況」。これは「我々をぐるっと取り巻いて(立って)いるもの」ということ。

(ex) It depends on[upon] circumstances. それは(そのときの)状況次第だ

circle の形容詞形が circular で「円形の、循環する」。これは(カタカナ英語の)「サーキュレーター」から類推できる。サーキュレーターとは、冷気や暖気が部屋の中を効率よく循環するように風を送る装置[ファン]のことだ。もちろん(動詞形の) circulate は「循環する[させる]、流通させる」。そこから転じて「(うわさなど)広まる[める]」という意味もある。

●close について。

close は動詞になると「閉じる、閉める」という意味がある。これは(カタカナ英語の)「クローズ」「クローズド」から類推できる。クローズド(closed)とは「閉店ました」という意味で、そう書かれた札が(閉店後の)店の扉に掛けられたりする(「店をクローズする」などと言ったりもする)。closed は close の過去分詞形。それから(動詞の) close は[クローズ]と発音するので注意。

ちなみに「交差する[させる]」ことを「クロスする[させる]」というが、これは cross。cross には形容詞の用法もあり、その場合は「交差した」という意味になる。

(ex) a cross street 交差(する)道路

また形容詞の cross の意味として「不機嫌な、怒っている、意地悪な」という意味があるが、これは「互いの感情の方向が行き違う → 感情が対立し合う[ぶつかり合う] → 不機嫌な、怒っている、意地悪な」となった。

會何かと感情がぶつかり合う相手というのは、こちらからみれば意地悪に見えるし、穏やかでない(つまり不機嫌、あるいは怒っている)ように見える。

(ex) The teacher was cross with us for forgetting our homework.

先生は私達が宿題を忘れたので不機嫌だった

a cross word 意地悪なことば

●collaborate について。

カタカナ英語で「実験室、研究室(所)」のことを「ラボ」というが、これは laboratory のことで、ここにも labor という語が入り込んでいる。元々は「働く場所」という意味だ。labor に関連した表現には他に labor union で「労働組合」、labor force で「労

働力」、laborer で「労働者」などがある。

(ex) manual[mental] labor 肉体[精神]労働

She is laboring at his writing. 彼女は執筆に精を出している

Let's labor for a better future. よりよい未来のために努めよう

I labored to complete the task. 私はその仕事を完成しようと骨折った

●command について。

command の『核』のイメージは「～を支配下に置く[おさめる]」。そこから「命令する」という意味が生まれた。他に「言語を自由に操る」という意味もあるが、それは「言語を(自身の)支配下におさめる」ということ。

(ex) He commands a large vocabulary[a large sum of money].

彼は豊富な語彙[巨額の金]を意のままに使える

●company について。

company とは、元々「一緒に(ccm)+パンを食べること・人(pany)」ということ。

日本語でも「同じ釜の飯を食った者 → 仲間」だ。仲の良い仲間が仕事のために集まるから「会社」となる。ただ company は「一緒にパンを食べること → ①同席、同伴、一緒 ②交際、付き合い」という意味にまで派生するので注意。

(ex) I cannot bear his company. 彼との同席は我慢がならない

I enjoyed your company. あなたとご一緒して楽しかった

●compel について。

語源~pel / puls

pel / puls は「駆り立てる」を表す語幹。compel は語源的には「完全に(ccm)+駆り立てる(pel) → 強く駆り立てる → 強制する」となる。これ以外にこの語幹を含む語の例をいくつか挙げてみよう。

procompel pro(前に)+pel → 前に駆り立てる ⇨ 推進する

expel	ex(外に)+pel	→ 外へと駆り立てる	⇨ 追い出す
repel	re(後へ)+pel	→ 後方へと駆り立てる	⇨ 撃退する
compel	com(完全に)+pel	→ 強く駆り立てる	⇨ 強制する
dispel	dis(分散)+pel	→ 分散するよう駆り立てる	⇨ 追い払う
pulse	puls+e	→ 駆り立てるもの	⇨ ①脈拍 ②鼓動
impulse	im(=cn)+puls+e	→ 上へ駆り立てるもの	⇨ ①衝動 ②推進力
pulsate	puls+ate[動詞語尾]	→ 駆り立てるようにする	⇨ 脈を打つ

●compose について。

高校の英作文の授業のことを「コンポジション」と言う。これは composition のことで、compose の名詞形。また「作曲家」のことを「コンポーザー」と言ったりする。英語でもそれは composer という。

(語)be composed of A: Aで構成されている、Aから成る
=consist of A, be made up of A

(ex) Water is composed of hydrogen and oxygen. 水は水素と酸素で構成されている

●confess について。

ちなみに infant は「**幼児、赤ん坊**」という意味だが、fant も fess と同じ「言う」という意味を持つ。in は「～できない」という否定の接頭辞。で infant は「話せない者 → **赤ん坊**」となる。

●conscious について。

OO-conscious で「**OOを意識した、気にかける**」、self-conscious で「**自意識過剰の【な】**」という意味になる。後者は「自分を意識した」ということ。

●consider について。

considerable / considerate の覚え方

他動詞に able[ible] がつくるとそれは「～されうる(ような、べき)」という意味になる。そうすると considerable は「考慮されるべき → 相当な、かなりの、無視できない」となる。反意語は inconsiderable で「ささいな、わずかな」。considerate の方は「考慮する(consider)+～に満ちた(ate) → 人を考慮する気持ちに満ちあふれた → 思いやりがある」となる。反意語は inconsiderate で「思いやりがない、思慮のない、軽率な」。

●construct について。

語源～struct

struct は「(組み)建てる、積み上げる」。この語幹を持つ語の例を挙げてみよう。

structure	struct+ure[名詞語尾]	→ (組み)建てること	◇ ①建造物 ②構造
※structure には「構築する」「組み立てる」という意味の動詞もある。			
destruction	de(反対)+struct+ion[名詞語尾]	→ 建たものを壊す	◇ 破壊(すること・されること)
instruct	in(中に)+struct	→ 心の中に(知識)を建てる	◇ 教える、指導する
obstruct	ob(反対して)+struct	→ 反対して建てる	◇ 妨害する

●content について。

content には「①(入れ物の)中味、内容 ②(書物などの)内容、目次 ③含有量」という名詞の意味もある。その場合アクセントは第一音節(「満足している」という意味ではアクセントは第二音節)。こちらは(カタカナ英語の)「コンテンツ」から類推できる。

(ex) the contents of a box 箱の中味

His speech lacked content. 彼の話には内容がなかった

●control について。

名詞のcontrol を用いた決まり文句をあげてみよう。

- (ex) out of control: 制御しきれなくなって
- beyond control: 抑えきれない、やむを得ない
- lose control of [cver] A: Aを抑えきれなくなる
- under control: 管理されて、抑制されて

●courage について。

encourage のような en型の動詞の類推法をまとめてみよう。

語源～en[em]

en[em] は「en[em]+OO」「OO+en」で

- ①[他動詞を作ると]「中に(入れる)」
- ②[他動詞を作ると]「～にする、～を与える」
- ③[自動詞を作ると]「～になる」

という意味になる。たとえば encase は「中に(en)+容器(case) → 容器の中に入れる」、enhance は「～にする(en)+高い(hance=high) → ～を高い状態にする → ～を高める」となる。enforce は「～を与える(en)+力(force) → (法律に)力を与える → (法律を)施行する」となる。reinforce は「再度(re)+与える(in=en)+力(force) → 再度力を与える → ～を補強[強化]する、より強固にする」となる。

これを理解できると100以上の語彙力が一気に身につく。更に具体例をいくつか挙げてみよう

enroll	en+roll (名簿)	→ 名簿の中に入れる	⇨ 登録する
embody	em+body (体)	→ 体を持った状態の中に入れる	⇨ 具体化する
embrace	em+brace (腕)	→ 腕の中に入れる	⇨ 抱擁する
※「腕輪」のことを bracelet と言う。			
embark	em+bark (船)	→ 船の中に入れる	⇨ 乗船させる(する)
enact	en+act (行う)	→ 実行するの中に入れる	⇨ ①(法律を)制定する

②(提案等を)を実行に移す

③上演する

encompass en+compass(範囲) → 範囲の中に入れる ⇨ 包囲する、含む

enclose en+close(閉じる) → 中に入れて閉じる ⇨ ①～を囲む

②～を同封する

embargo em+bargo(バリケードを築く) → 中に入れてバリケードを築く

⇨ ①(船の出入港の)禁止

②(通商を)禁止(する)

enjoy en+jcy(喜び) → 喜んだ状態にする ⇨ 楽しませる

endanger en+danger(危険) → 危険な状態にする ⇨ 危険にさらす

enable en+able(可能) → 可能な状態にする ⇨ 可能にする

※enable O(人) to do[原形]～ で「Oが～できるようにする」という語法が頻出。

enrich en+rich(豊かな) → 豊かな状態にする ⇨ 豊かにする

enlarge en+large(大きい) → 大きい状態にする ⇨ 拡大する

enlighten en+light(光)+en → 光を当てた状態にする ⇨ 啓発する

encode en+code(暗号) → 暗号にする ⇨ 暗号化する

※de は「逆・反対」を表す接頭辞で decode は「(暗号を)解読する」という意味になる。

widen wid(=wide)+en → 広くする ⇨ 広げる

deepen deep(深い)+en → 深い状態にする ⇨ 深くする

weaken weak(弱い)+en → 弱い状態にする ⇨ 弱くする

hasten haste(急ぐ)+en → 急いだ状態にする ⇨ 急いで～する

fasten fast(しっかりした)+en → しっかりした状態にする ⇨ 固定する

embody em+body(体) → 体を与える ⇨ 具体化する

empower em+power(力) → 力を与える ⇨ (資格・権限等を)与える

encourage en+ccourage(勇氣) → 勇氣を与える ⇨ 勇氣づける

※encourage O(人) to do[原形]～ で「Oに～するよう促す」という語法が頻出。

entitle en+title(題目・称号) → 題目(称号)を与える ⇨ ①資格(権利)を与える

②(～という)題を与える

※entitle は be entitled と受身で使われることが多く、その場合「資格[権利]を持っている」「(～という)題が付いている」という意味になる。

●describe について。

語源～scribe / script

scribe / script は「書く」を表す語幹。describe は「下に(de)+書く(scribe)
→ 下書いてみる → 描写する」となる。describe 以外でこれを含む語の例
をいくつか挙げてみよう

subscribe	sub(下)+scribe	→ 名前を下に書く	⇨ ①署名する ②予約購読する
inscribe	in(中)+scribe	→ 中へ書く	⇨ 刻み込む
prescribe	pre(前)+scribe	→ 前もって書く	⇨ 処方する
postscript	post(後)+script	→ 後で書いたもの	⇨ 追伸
manuscript	manu(手)+script	→ 手で書いたもの	⇨ 原稿

●express について。

語源～ e(f) / ex

e(f)、ex は「外(に・へ)」を表す接頭辞。その例をいくつか挙げてみよう。

exit	ex+it(行く)	→ 外へ行く	⇨ 出口
exhale	ex+hale(息をする)	→ 外へ息をする	⇨ 吐き出す
explode	ex+plode(叩く)	→ 外へ叩く	⇨ 爆発させる
export	ex+port(運ぶ)	→ (製品を)外に運び出す	⇨ 輸出(する)

※逆に import は「im(中)+port(運ぶ)」で「輸入(する)」。

extract	ex+tract(引き出す)	→ 外に引き出す	⇨ ①抽出する ②引用する、抜粋する
---------	----------------	----------	-----------------------

emigrant e+migrant(移住者・移住する) → 外に移住する人 ⇨ (他国への)移住者、移民

※ちなみに immigrantは「im(中)+migrant」で「(国内への)移住者、移民」。

emerge	e+merge(飛び込む)	→ 飛び込んでしづきが水中から外へ出てくる	⇨ 現れる
eminent	e+minent(突き出ている)	→ 外に突き出ている	⇨ ①有名な ②卓越した

※minent で覚えられる語として以下がある。

prominent	pro(前方)+minent	→ 前方に突き出ている	⇨ ①突き出た ②有名な
-----------	----------------	-------------	--------------

=preeminent pre(前に)+eminent → 前に突き出ている ③目立った
 imminent im(上に)+minent → 上に突き出ている ⇨ 切迫した、差し迫った
 evaporate e+vapor(蒸気)+ate(にする) [動詞語尾] → 蒸気にして外に出す ⇨ 蒸発させる(する)
 educate e+duc(導く・導き出す)+ate(にする) [動詞語尾] → 能力を外へ導き出す ⇨ ～を教育する
 emit e+mit(送る) → 外に送り出す ⇨ ①(臭い・光・熱等を)放出する ②(言葉)口に出す

※ちなみに exter(n) は「外側に(の)」という意味。

external 外部の、外的な ⇨ internal 内部の、内的な
 exterior 外面の、外側(装)の ⇨ interior 内面の、内側(装)の
 extreme 極度の、極端な、過激な

語源～press

press は「押す(さえつける)、圧する」を表す語幹。これを用いた語の例を挙げてみよう。

pressure	press+ure [名詞語尾]	→ 押すこと	⇨ 圧力
impress	im(中)+press	→ 心の中に(跡が残るように)押し付ける	⇨ 印象づける
express	ex(外)+press	→ (気持ち等を)外へ押し出す	⇨ 表現する
		→ (人を)外に押し出すもの	⇨ 急行列車(バス)
suppress	sup(下へ)+press	→ 下へ押す(押さえ込む)	⇨ 鎮圧する
compress	com(一緒に)+press	→ 一緒に押し込む	⇨ 圧縮する
oppress	op(=ob)+press	→ 反対して押す	⇨ 圧迫[迫害]する 苦しめる

●everywhere について。

everywhere が接続詞的に用いられることについて述べたが、これ以外に接続詞的に用いられる語(句)をあげてみよう。

意外な接続詞

英文を読んでいると、「え、これ接続詞なの(→o←)?」という語に時々お目に

かかる。そんな意外な接続詞をまとめてみよう。

- ① **by the time S+V** ~ 「～する頃までには」
(ex) I will have finished my work by the time you come back.
君が戻ってくる頃までには、私は仕事を終えてしまっていることだろう
- ② **every[each] time S+V** ~ 「～するたびに」
「～する時はいつも[必ず]」 = whenever, any time
(ex) Each time a man came in, another went out.
1人が入ってくるたびに、別の1人が出ていった
She says something every time I turn around.
私が顔を出すと彼女はいつも文句を言う
- ③ **any time S+V** ~ 「～するときはいつも[必ず]」 = whenever
(ex) Any time she couldn't have her own way, she got angry.
彼女は思い通りにならないときはいつでも腹を立てた
- ④ **The first[next/ last] time S+V** ~
「はじめて[今度/最後に]～する時(に)」
(ex) The first time I visited the town, I met my wife.
はじめてその街を訪れた時、私は妻と出会ったのだ
- ⑤, **for S+V** ~ 「というのは～だからだ」
(ex) It was just twelve o'clock, for the church bell was ringing.
ちょうど12時だった。というのは教会の鐘が鳴っていたからだ
- ⑥ **now (that) S+V** ~ 「(今はもう)～だから」
(ex) Now (that) we are all here, we can begin.
みんな集まったからには始められるぞ
- ⑦ **in that S+V** ~ 「～という点において、～だから」
(ex) Humans differ from animals in that they can think and speak.
人間は考えたり話したりできるという点で動物とは違う
- ⑧ **in case S+V** ~ 「もし～なら」
「～の場合に備えて(～だといけないので)」
(ex) In case I'm late, don't wait for me to start dinner.
もし私が遅れたら、待っていないで食事を始めなさい
Take your umbrella with you in case it rains.
雨が降る場合に備えて傘を持って行きなさい

⑨ unless S+V～ 「～でない限り」

(ex) You will miss the last train unless you walk more quickly.
もっと速く歩かない限り、最終列車に乗り遅れますよ

⑩ providing[provided] (that) S+V～ 「もし～なら」

(ex) Providing[Provided] you accept my offer, I will do anything.
もしあなたが僕の申し出を受け入れてくれるなら、なんでもします

⑪ suppose[supposing] (that) S+V～ 「もし～なら」

(ex) Suppose[Supposing] your father saw us together, what would he say?
君の父さんが僕達と一緒にいるのを見たら、なんて言うだろう

⑫ given (that) S+V～ 「～と仮定して」

「～を考慮に入れるなら(入れると)」

「～があれば」

(ex) Given (that) the radius is 30cm, find the circumference.
半径を30センチとして、その円周を求めよ

Given (that) one is in good health, one can achieve anything.

人間健康でいられれば、何でも成し遂げられる

Ⓢ 「given+A(名)」となることもある。その場合は given は前置詞と見なされる。

⑬ As soon as S+V【過去】～, S₁+V₂【過去】…

=(At) The moment =The second

=The instant =Immediately

=The minute

(ex) As soon as he saw me, he began to cry.

彼は私を見るとすぐに泣き出した

=The moment he saw me, he began to cry.

=The instant he saw me, he began to cry.

=The minute he saw me, he began to cry.

=Immediately he saw me, he began to cry.

⑭ once S+V～ 「ひとたび(いったん)～すると」

(ex) I never wake before six o'clock, once I get to sleep.

僕はいったん眠りについてしまったら6時前には決して目を覚まさない

●fix について。

fix には他に「修理する」という意味もあるが、これは「ガタついてうまく動かないものを固定して動くようにする[元の状態にする] → 修理する」となった。また「日時(場所・価格)を固定する → 日時(場所・価格)を確定する、定める」という意味にもなる。それから「手はずを整える、整理する」という意味もあるが、これは(カタカナ英語の)「フィクサー」から類推できる。フィクサー(fixer)とは(裏で)物事(の手はずなど)を調整したりする役割の人のことを指して言う。

●flash(光る) と flush(流れる) について。

flush は「①(水が)どっと流れる ②(顔が)紅潮する」。覚え方は flash の a と「光る(ひかある)」が同じ"ア"つながりになるのを、flush の u と「流水(りゅううすい)する」が同じ"ウ"つながりになるのを引っ掛かりにするといい。

●flat について。

flat は「起伏がない → めりはりがない → つまらない、味がしない」という意味にもなる。また「(タイヤが)平らな → 空気が抜けた → パンクした」という意味もある。get a flat tire. で「(タイヤが)パンクする」。The tire's gone flat. とも言う。

●fortune について。

fortune は、元々は「幸運」という意味。「幸運をもたらしてくれるもの → 富、大金」となった。ちなみに a fortune teller は「運を告げる人 → 占い師」という意味。

●generous について。

語源～gen

gen は「生まれ(生む)」という意味の語幹。generate は「生み出す、発生させる」。gentle は「生まれの良い → 優しい、気立てのいい」となった。generous も同じ由来で「気前がいい、ケチケチしない」「寛大な」、genial は「愛想がいい、親切な」となる。

●interactive について。

語源～inter

inter は「相互(の・に)」「中間(で・に)」「～の中(で・に)」を表す接頭辞。これを含む語の例を挙げてみよう。

intercollegiate	inter+collegiate(大学の)	→ 大学相互の	⇨ 大学間の
international	inter+national(国の)	→ 国と国の間の	⇨ 国際間の
intercity	inter+city(都市)	→ 都市相互の	⇨ 都市間の
interact	inter+act(作用する・動く)	→ 相互に作用し合う 相互に動き合う	⇨ 相互に作用する 影響を与え合う
intercept	inter+cept(つかみ取る)	→ 途中でつかみ取る	⇨ ①横取りする ②遮断する、傍受する
interbreed	inter+breed(繁殖させる)	→ 異種の間で繁殖させる	⇨ 異種交配させる
interchange	inter+change(変える・変わる)	→ 相互に換える	⇨ ①～を交換し合う ②～が入れ替わる

※intro は「内へ、中へ(に)」。

introduce	intro+duce(導く)	→ 中へと導く	⇨ ①～を導入する ②～を紹介する
-----------	----------------	---------	----------------------

●literacy について。

literature の類語は要注意!

- ①literacy 「読み書き計算ができること、識字能力」 ⇔ illiteracy
會形容詞形は literate で「読み書きができる」反意語は illiterate で
「読み書きができない」。
- ②literal 「文字通りの」
(ex) My wife took it in the literal sense.
妻はそれを文字どおりの意味にとった
a literal translation 直訳
- ③literally 「文字通りに」
(ex) She takes me too literally.
彼女は私の言うことを文字通りに(受け)取り過ぎる

●load について。

load には「(プログラムを)読み込む」といった意味もあるが、これらについては(カタカナ英語の)「ローディング」から類推できる。ローディング(loading)とは、ゲームソフトをゲーム機本体に装填して(つまり指し込んで読み込ませ)、ゲームができる状態にすることだ。ゲームソフトなどをゲーム機に入れた際、Now loading… という文字が画面に表示されるのを見たことがある人も多いはずだ。ちなみに銃に弾を込める[装填する]こともローディングという。load は loading の動詞形。

●measure について。

元々 measure は「測り」。それが動詞になると

「言葉・行動等を慎重に測る → 言葉等を慎重に選択[検討]する、行動などを調整する」
「人(物)を測る → 評価する」

という意味にもなる。名詞の場合、比喩的に「尺度、基準、限度、度合い」、更に

「ある問題に対して慎重に測られたこと → 処置、措置、対策、手段」

という意味もある。take measures (against A) で「(Aに対する)措置[対策]を講じる」。

●medium について。

medium は「中間(の)」という意味だが、そこから「中間に存在するもの → 媒体、媒介(物)、手段」という意味にもなる(目的物を手に入れるために用いるのが手段。つまり「手段」とは、自身と目的物との間にあるそれを仲介・媒介するもの)。medium が「情報・通信などの手段」という意味になる場合、その複数形が media。これは(カタカナ英語の)「(マス)メディア」から類推できる。英語でも the media という、新聞・雑誌・映画・放送などといったマスメディア(mass media)のことを指す。

●mention について。

「自動詞と間違えやすい他動詞」

discuss の意味は「Aについて討論する」。この日本語の意味から日本人はつい、「discuss about A」とやってしまいがち。が、実は discuss は他動詞なので、about等という前置詞の助けは必要ない。「discuss A」というのが正しい形なのだ(同じ意味でも、自動詞の talk を使えば「talk about A」が正しい形になる)。この discuss に代表されるような、日本語感覚からついうっかり前置詞を入れてしまいやすい他動詞が(先程の mention を含め)英語にはある。代表例をあげてみよう。

- | | | |
|--------------|-------------|--|
| ①discuss A | 「Aについて討論する」 | =talk about A |
| ②accompany A | 「Aについてゆく」 | =go with A, follow A |
| ③marry A | 「Aと結婚する」 | =get married to A |
| ④attend A | 「Aに出席する、通う」 | =go to A |
| ⑤stand A | 「Aに耐える」 | =put up with A, endure A
tolerate A |
| ⑥approach A | 「Aに近づく」 | =come to A |
| ⑦resemble A | 「Aに似ている」 | =take after A |
| ⑧enter A | 「Aに入る」 | =come into A |

⑨A(物) strike B(人)	「AがBの頭に思い浮かぶ」	=A(物) occur to B(人)
⑩obey A	「Aに従う」	=yield to A
⑪join A	「Aに参加する」	=take part in A, participate in A
⑫await A	「Aを待つ」	=wait for A
⑬contact A	「Aと接触する」	=get in touch with A
⑭oppose A	「Aに反対する」	=object to A, be opposed to A
⑮reach A	「Aに着く」	=arrive at A, get to A
⑯excel A	「Aに勝る、上回る」	=be superior to A surpass[exceed] A
⑰mention A	「Aについて話す」	=refer to A
⑱inhabit A	「Aに住む」	=live in A

⑨-⑱の18個の動詞の頭文字をつなげて **damasaresojacoremi**、「だまされそうじゃこれ見い」と覚えよう。

●note について。

note には「①注目する、～に気づく ②～について述べる」という意味もある。
「ある物事に注目する → それを(忘れないように)書き留める → それを誰かに話す [述べる]」という一連の行動プロセスで記憶に入れてしまうといい。

●object について。

「to+doing～」の慣用表現

to には「不定詞」の to と「前置詞」の to がある。その to が不定詞なら、直後は当然「動詞の原形」が来なくてはならないが、その to が前置詞なら「動名詞(名詞・代名詞等)」が来なくてはならない。

②前置詞の後ろに来るのは「名詞の仲間」だけだから。

① to[不定詞] + 動詞の原形

② to[前置詞] + 名詞の仲間(名詞・代名詞・動名詞等)

このうち、「(前置詞の)to+doing～」で慣用的に使われる表現は受験では超頻出。
そのうちのベスト7をあげてみよう。

①be[get] used to doing～ 「～することに慣れている[慣れる]」
=be[get] accustomed to doing～

(ex) I'm used to getting up early. 僕は早起きすることに慣れている
會ちなみに「used to do[彫]～」は「(昔)よく～したものだ」で
過去の習慣を表す。

(ex) I used to get up early when young.
若いころは早起きをしたものだった

②look forward to doing～ 「～することを楽しみにする(待つ)」

(ex) I'm looking forward to going abroad for study next year.
私は来年留学することを楽しみにしています

③what do you say to doing～? 「～したらいかがですか」 [勧誘・提案]

(ex) What do you say to taking a bath before you take supper.
夕飯前にお風呂に入られたらどうです

④devote[dedicate] oneself to doing～ 「～することに専念する」

(ex) He's devoting himself to spending his father's money.

彼は父親の金をせっせと使っている

It is wrong to devote yourself only to amusement.

楽しみだけにふけるのは間違っている

⑤with a view to doing～ 「～するために」 (目的)

=with the view of doing～

(ex) He works hard with a view to gaining a scholarship[奨学金].

彼は奨学金を獲得するつもりで一生懸命勉強している

會同じ「～するために」でも、in order to の to は不定詞。直後
には動詞の原形が来る。

(ex) I went there in order to meet him.

彼に会うために私はそこに行った

⑥object to doing～ 「～することに反対する」

=oppose doing～

=be opposed to doing～

=oppose oneself to doing~

(ex) I object to carrying out the plan.

私はその計画を実行することに反対だ

⑦when it comes to doing~ 「~することになると」

(ex) When it comes to eating, he is a very different person.

食べることになると、彼は別人のようになる

●occupy について。

occupy は「人が場所を占める → (人が)~に住む・~を使用する」という意味にもなる。
類語の preoccupy は「他よりも先に(pre)+心[場所]を占有する(occupy) → ①(人を)夢中にさせる、心を奪う ②~を先に占有する」となる。

(ex) Mr. Black has occupied the house for seven years.

ブラック氏はその家に7年間居住してきた

They were preoccupied with this new plan for weeks.

彼らは何週間もこの新計画に夢中になっていた

●odd について。

odd の『核』のイメージは「そろっていない[不ぞろいの]」。そこから

「そろっていない → 話につじつまが合わない → おかしい」

「そろっていない → 割り切れない → 奇数の」

「そろっていない → 飛び飛びの → 臨時の」

となる。

●offend について。

名詞形の offense は、「①(法律などの)違反 ②腹立たしいもの、侮辱」という意味もあるので注意。これは元々 offend に「攻撃する」から転じて「人の感情を攻撃する → 感情を害する、傷つける」「規則などを傷つける → 規則を破る、背く」という意味があるから。したがって offensive にも「不快な、侮辱的な」という意味があるので注意。

●owe について。

owe の語法

①[owe A(人) B(金など)] 「AにBを借りている」

[owe B(金など) to A(人)]

(ex) How much do I owe you? あなたにいくら借りがありますか
I owe him \$10. ボクは君に5ドル借りている
=I owe \$10 to him.

②[owe A(人) B(義務など)] 「AにBの義務を負っている」

[owe B(義務など) to A(人)]

(ex) I owe you an apology. 君におわびをしなければならない
=I owe an apology to you.

③[owe A(事) to B(人・事)] 「AはBのおかげだ」

(ex) I owe my success to my parents. 私の成功は両親のお陰です
=I owe it to my parents that I succeeded.

仮・目

真・目

He owes what he is to hard work.

彼の今日あるのは勤勉のたまものだ

●partial について。

派生語の part には、動詞として「～を分ける」「～を引き離す」また

① part from A(人) 「Aと別れる」

(ex) I parted from my friend in anger. 私は友達とけんか別れをした

② part with A(物) 「Aを手離す」

(ex) I have already parted with my old car. 私はすでに古い車を手放した

という語法がある。

●possess について。

possess には「(悪霊・欲望などが)~に取りつく」という意味もあり、その場合受け身で用いられることが多い。He was possessed with an evil spirit. は「彼は悪霊に取りつかれていた」。

●proceed について。

語源~ceed

ceed / cede / cess / cest は「行く」「去る」「進む」という意味の語幹。これらを用いた語をいくつかあげてみよう。

proceed	pro(前)+ceed	→ 前に進む	⇨ 進む
exceed	ex(外)+ceed	→ 外へ(超えて)行く	⇨ 限度を越える
succeed	suc(=sub)+ceed	→ 下から進む	⇨ ①成功する ②継承する
precede	pre(前)+cede	→ 前に行く	⇨ 先行する
concede	con(一緒に)+cede	→ 一緒に進む	⇨ 譲歩する
recede	re(後)+cede	→ 後へ進む	⇨ 退く
intercede	inter(中へ)+cede	→ 間に入ってやる	⇨ 仲裁する
necessary	ne(=nct)+cess(譲る)+ary[形容詞語尾]	→ 譲れない	⇨ 必要な
access	ac(=ad)+cess	→ ~の方に向かって行くこと	⇨ 接近
process	pro(前)+cess	→ (時・事柄が)前に進むこと	⇨ 過程
excess	ex(外)+cess	→ 外へ(超えて)行くこと	⇨ 超過
ancestor	an(前)+cest+or(人)	→ 前に行く人	⇨ 祖先

●prospect について。

語源～spec / spicu

spec, spicu は「見る」を表す語幹。それがわかるとこれまた語彙増強の助けになる。たとえば conspicuous は「目立つ、人目を引く」だが、「他の人と一緒に(ccn)+spicu(見る)+ous[形容詞語尾] → 思わずみんなで見ってしまうような → 目立つ、人目を引く」となる。inspect は「検査する、(詳しく)調査する」だが、「中を(in)+見る(spect) → 検査する、(詳しく)調査する」となる。speculate は「推測する、思いを巡らす」だが、これは「自分の周りの状況などをよく見る」からきている。「見る」ことは「考える」ことに通じる。そこから「推測する、思いを巡らす」という意味が出てくる。speculate は更に転じて「投機する」という意味にもなる。

他に spect から類推できる語を挙げてみよう。

aspect	a(=ad)+spect	→ 外面上の特徴(を見ること) ⇨ 面・様相
respect	re(再び)+spect	→ 振り返って見る ⇨ 尊敬する

※「振り返ってまで見る」ということは大切な(価値ある)ものだから。

「(自分にとって)大切なものとして見る → ①(人を)尊敬する ②(物事を)尊重する」となる。

perspective	per(通して)+spect+ive[形容詞語尾]	→ 通して見る	⇨ 遠近法(の)
spectator	spect+tator(人)	→ 見る人	⇨ 見物人
specimen	spec+imen(もの)[名詞語尾]	→ 見るもの	⇨ 見本
spectacle	spect+acle(もの)[名詞語尾]	→ 見るもの	⇨ 見世物

respectable / respectful / respective の覚え方

①respectable…「尊敬する(respect)+～されうる(able) → 尊敬されうる → 立派な、ちゃんとした」

②respectful…「尊敬する(respect)+いっぱい(ful) → 尊敬する気持ちをいっぱい込めた → 丁寧な、敬意を払う」

③respective…この際の respect は「点」を意味する。tive は「～に関する」という意味の接尾辞。「一点一点に関する → それぞれの、各自の」となる。

●recent について。

recently / lately / nowadays / these days の使い分け方と覚え方

recent の副詞形が recently で lately とほぼ同意。両者は現在完了形と共に用いる。リーストリーの「リ」、レイトリーの「レ」、完了形の「リ」が全て「ら行」つながりになるのを引っ掛かりにして覚えよう。

それに対して「最近は、このごろ」という意味の nowadays と these days は現在時制と共に用いる。これは nowadays の now = 現在 = 現在時制 と連想しよう。these days は nowadays と同じ days つながりで使い方も同じと覚える。

●reduce について。

語源～duce/duct

duce/duct は「導く」を表す語幹。reduce は「後ろへ(re)+導く(duce) → 引き下げる、減らす」ということ。他にこの語幹を含む語をいくつかあげてみよう。

produce	pro(前)+duce	→ 前に導き出す	⇨ 生産する
induce	in(中へ)+duce	→ 中へ(中心へ)導き入れる	⇨ ①勧誘する ②引き起こす
introduce	intro(中へ)+duce	→ 中へ導く	⇨ ①紹介する ②(取り)入れる、導入する
product	pro(前)+duct	→ 前に導き出されたもの	⇨ 産物
deduce	de(下・分離)+duce	→ 下へと(結論を)導き出す	⇨ (演繹的に)推論する
deduct	de(下・分離)+duct	→ (本体から)分離して抜き出す	⇨ 控除する
conduct	con(-一緒に)+duct	→ 一緒に導く	⇨ 案内する
educate	e(=ex)+duc+ate [動詞語尾]	→ 能力を外へ導き出す	⇨ 教育する

●result について。

result from と result in

動詞の result の語法でややこしいのが result from と result in。両者を簡単に区別する方法を紹介しよう。

- ① result from は from を「←」を表す記号と考えるといい。そして A result from B は「A＝結果」「B＝原因」の意味関係になる。「A(結) result from B(原)」で「AはBが原因で起きる」となる。

(ex) Sickness often results from eating too much.

[結] ← [原]

病気はしばしば食べすぎから起こる。

- ② result in は in を「→」を表す記号と考えるといい。そして A result in B は「A＝原因」「B＝結果」の意味関係になる。「A(原) result in B(結)」で「A(原)はB(結)の結果に終わる、Bを引き起こす」となる。

(ex) Eating too much often results in sickness.

[原] → [結]

食べすぎの結果よく病気になることがある

●retain について。

語源～tain

tain で終わる語の大半は keep(保つ) で言い換えられる。

※例外的に見えるのは obtain(手に入れる) と attain(①手に入れる
②なし遂げる)。

そんな tain を含む語の例を挙げてみよう。

entertain	enter(中へ)+tain	→ 中へ入れて保つ	⇨	もてなす
contain	con(-一緒に)+tain	→ -一緒に保つ	⇨	含む
retain	re(後へ)+tain	→ 後へ保つ	⇨	保つ
sustain	sus(下)+tain	→ 下から上へ保つ	⇨	支える

abstain	abs(=ab)+tain	→ 離れて保つ	⇨ 慎む、控える
maintain	rain(手)+tain	→ 手の中で保つ	⇨ 維持する
obtain	cb(近くに)+tain	→ (自分の)近くに保持する	⇨ 手に入れる
attain	at(～に)+tain(触れる・達する)		⇨ ①成し遂げる、達成する ②～に達する

●root について。

類語の uproot は「①～を根こそぎ引き抜く ②～を根絶する」。これは「上に(up)+根(root) → 根を地上に出す → 根を引き抜く」となる。

ちなみに「道(筋)」のこともルートというが、それは route。route には「(郵便・新聞・牛乳などの)配達区域」という意味もある。I have a newspaper route. は「私は新聞配達をしています」となる。

●scarcely について。

「～するとすぐ…した」を表す構文

scarcely や hardly を用いて「～するとすぐ…した」という意味を表せます。この意味を表す構文は他にもいくつかあります。まとめてみましょう。

(1) As soon as S + V【過去】～, S₁ + V₂【過去】…

= (At) The moment

= The instant

= The minute

= The second

= Immediately

(2) On Ving～, S₁ + V₂【過去】…

(3) S + had + □ + p.p. ～ ■ S₁ + V₂【過去】… ☞ (3)だけは、前半部分が「過去完了形」になる。

□ + had + S + p.p. ～ ■ S₁ + V₂【過去】… ☞ □ が文頭に出ると、直後が疑問文と同じ語順に変化する。

【疑問文と同じ語順】

語順に変化する。

□ : ■

no sooner than

scarcely when[before]

hardly when[before]

(ex)As soon as he saw me, he began to cry. 彼は私を見るとすぐに泣き出した

=The **moment** he saw me, he began to cry.

=The **instant** he saw me, he began to cry.

=The **minute** he saw me, he began to cry.

=**Immediately** he saw me, he began to cry.

=**On seeing** me, he began to cry.

=**At the sight of** me, he began to cry. ㊦at the sight of A:Aを見るとすぐに

=He had **no sooner** seen me **than** he began to cry.

=**No sooner** had he seen me **than** he began to cry.

=He had **scarcely** seen me **when[before]** he began to cry.

=**Scarcely** had he seen me **when[before]** he began to cry.

=He had **hardly** seen me **when[before]** he began to cry.

=**Hardly** had he seen me **when[before]** he began to cry.

scarcely / hardly(ほとんど~ない)と seldom / rarely(滅多に~ない)の違い

scarcely, hardly は「程度の少なさ」を表し、seldom, rarely は「頻度、回数の少なさ」を表す。したがって「彼とはほとんど会わない」は(会う回数を問題にしているので) I seldom[rarely] meet him. と言う。

それに対し「彼の言っていることがほとんど分からない」は(理解の程度を問題にしているので) I scarcely[hardly] understand what he says. と言う。

●servant について。

類語の serve を『核』のイメージからまとめてみよう。

serve の『核』のイメージは「～にサービスを提供する(与える・果たす)」。
そこから転じて「～のために働く」「～に仕える」「(食事などを)出す、給仕する」
「一定の期間(任期・刑期)をつとめる」という意味が生まれた。

(ex) I served Mr. Smith for 20 years. 私はスミス氏に20年間仕えた

She serves at a bank. 彼女は銀行勤務だ

He serves as principal at the high school.

彼はその高校で校長をしている

☞ serve as A で「Aとして(の)役割を果たす」。

The man is serving a 14-year term in prison for burglary and murder.

その男は強盗殺人の罪で懲役14年の刑に服している

She served pie for dessert. 彼女はデザートにパイを出した

This village has not yet been served with electricity.

この村にはまだ電気が供給されていない

☞ serve A with B で「AにBを供給する」。

また比喩的に「(機能・役割を)果たす」「(目的などに)かなう」「機能する」という意味にも用いられる。

(ex) This tool will serve our purpose[needs].

この道具で私たちの用は足りるだろう

This serves to show how reliable he is.

これは彼がいかに信頼できるかをよく示している

☞ serve to do[願]～ で「～するのに役立つ」。

This table will serve. このテーブルで間に合うだろう

The plane will take off when the weather serves.

飛行機は天候が回復次第離陸します

☞ 上例は「天候が(離陸という目的に)かなう」ということ。

さらに「働く、仕える」から転じて、(様態を表す副詞を伴って)「(人を)扱う、(人に)報いる」という意味でも用いられる。

(ex) (It) Serves you[him, them...] right. ざまあみろ、いい気味だ

serve A right で「Aに正当に報いる」が直訳だが、上例の表現は、人をののしる言葉としてよく用いられる。

(ex) I was served very badly at the company. その会社ではひどい仕打を受けた

He served her a trick. 彼は彼女をペテンにかけた

☞ serve A a trick で「Aをペテンにかける、だます」。

●shoot について。

shoot は、転じて(比喩的に)「①シュートを打つ ②(光・視線・質問などを)放つ、発する ③(芽・舌などを)出す ④(写真・映画などを)撮影する」といった意味にもなる。

また名詞として「①射撃 ②新芽 ③狩猟場」という意味もある。

⚪サッカーなどの「シュート」は shot と言う。

●spell について。

spell は多義語で、「①期間、ひと続き ②(病気の)発作 ③呪文 ④魔法、魅力」という意味もあるので注意。a spell of work は「ひと仕事」。a long spell of fine weather は「長い晴天続き」。under a spell は「呪文に縛られて、魅せられて」。

●spot について。

動詞として「しみを付ける[になる]」という意味もある。

口語として、動詞の spot には「①(苦労して)見つける、(所在を)突き止める ②見て確認する、見きわめる、見抜く」といった意味もある。

(ex) I spotted her in the crowd. 私は人ごみの中で彼女を見つけた

●stick & stimulus について。

語源～ sti

stimulus 含め、stick(刺す)、sting(とげ[で刺す])、stink(刺すような悪臭)など、sti系の語は「刺す(突く)」を意味するものが多い。stifle(鎮圧する、声・感情を押し殺す)も、「地面を刺すように棒で押し固める → 鎮圧する、押し殺す」となる([staɪfl(スアイフル)]と発音する)。stifle には「(火などを)もみ消す」という意味もある。stiff は類語の形容詞。「刺すように押し固められた → 固い」となる([stɪf(スティフ)]と発音する)。

※stifle については「したいふりさせぬと鎮圧す」と覚えてもいい。専制

国家の支配者が、国民のしたいふりは(ようには)させぬとデモ・暴動を鎮
圧する…そんなイメージ。

そんな sti 関連の語の例を挙げてみよう。

stimulate	stimul+ate[動詞語尾]	→ 人を突いて刺激する	⇨ 刺激する、激励する
stimulus	stimul+us	→ 人を突くもの(棒)	⇨ 刺激(物)
sting	sting	→ 突き刺す	⇨ ①刺す ②悩ます ③刺激して～させる
stick	stick	→ 突き刺すもの	⇨ ①突き刺す ②固執する ③棒
stink	stink	→ 鼻を刺すくさい臭い	⇨ 悪臭(を放つ)
stitch	stitch	→ 縫い針を刺す	⇨ ①縫う(こと) ②縫い目、ひと縫い
instinct	in(=cn)+stinct	→ どんどん突いてくるもの	⇨ ①本能 ②直観、勘
instinctive	in(=cn)+stinct+ive[形容詞語尾]	→ どんどん突いてくるような	⇨ 本能的な
distinguish	di(=dis)+sting+uish[動詞語尾]	→ 突き刺して分離する	⇨ 区別する、見分ける

●straightforward について。

語源～ward(s)

ward(s) は「～の方へ(の・に)向かって」という意味の接尾辞。forward は「前へ(for)+の方に向かって → 前の方へ(へ)」となる。そうすると downward は「下の方へ(向かって)」。upward は「上の方へ(向かって)」。toward は「～の方へ(向かって)」。westward は「西の方へ(向かって)」となる。このように、ward(s) は様々な語と結びついてその方向を表す。

●strain について。

語源～str

str のついた語は大半が「(ひもで)引っ張る(られた)」「(ひもで)縛る(締めつける)」をその語源としている。たとえば strain は「ひもできつく縛る」。他にも stress(ストレス、緊張)、string(ひも・糸)、strict(厳しい、厳格な)。「緊張」というのは「心がピンと張りつめた状態」のことだ。「厳しい」は「人をぎゅうぎゅうと締めつける」からきていると見ればいい。他にはstring。これに関しては「ひも」そのもの。

straight, stretch も同じ語源。straight は「引っ張られた → 真っ直ぐな(に)」。stretch は「引っ張る → 伸ばす、広げる」となった。また restrict は re(後ろに)+strict で「後ろにきつく縛る → 制限する、限定する」。constrict は con(完全に)+strict で「完全にきつく縛る → 締めつける」。そこから「～を抑える、～を強いる」という意味にもなる。名詞形は constraint で「強制、束縛、抑制」。distrain は dis(離す)+strain で「離れたところに物を引っ張る → (財産を)差し押さえる」。restrain は re(後ろに)+strain で「後ろにきつく縛る → 束縛する、強いる」となる。

●substitute について。

「サブ」から類推もできる。「サブのメンバー」とは要するに「補欠」のことであり、正規メンバーの代用をする要員のことだ。

(語)substitute for A: Aの代わりをする

substitute A for B: Bの代わりにAを使う

(ex) I substituted margarine for butter to make a cake.

ケーキを作るのにバターの代わりにマーガリンを使った

●suggest について。

suggest の語法

suggest の語法は頻繁に問われる。最低限以下の語法はおさえよう。

①suggestは第3文型[SVO]を取る

(ex) × I suggested him to go there. ☞ suggestは「SVCC」は取らない。

S V O C

○ I suggested that he should go there.

S V O

②人を目的語に取れない

× suggest O₁(人) O₂(物) ☞ suggest to A(人) O(物) なら可。このようにsuggest

× suggest O(人) to do[原形]~ は「A(人)に(提案する)」という場合、A(人)の前にtoが必要。

③動名詞を目的語に取る 不定詞は目的語に取れない

○ suggest doing~

× suggest to do[原形]~

④(「提案する」という意味の場合)that節を目的語に取ると、that節内は「(should)+do[原形]~」になる

○ suggest that S+(should)+do[原形]~ ☞ shouldを省略することもできるが、その場合直後の動詞は「原形」の形にしておかなければならない。

(ex) I suggested that he (should) take[×took] a rest.

彼に休息してはどうかと提案した

●suppose について。

suppose の頻出語法

suppose は「思う、みなす」が基本の意味だが、それ以外の(日本人にとっては)意外な語法が頻出だ。しっかりおさえよう。

①Suppose (that) S+V~

※suppose を用いた命令文から生まれた慣用的な言い回し。「提案」「命令」

「問いかけ」の3つの可能性がある。

1. 「～してみてもはどうだろう」 [提案]

(ex) Suppose we eat out this evening. 今晩は外で食事するのはどうだろう

㊦ Let's do[彫]～! よりも控えめな表現になる。

2. 「～してくれませんか」「～だと想像してみてください」 [命令]

(ex) Suppose you make me a cup of coffee! コーヒー入れてもらえますか

Suppose this soccer ball is the earth.

=Suppose this soccer ball to be the earth.

このボールが地球だと仮定しよう

3. 「～したらどうなるだろうか(どうしようか)?」 [問いかけ]

(ex) Suppose it starts raining, what'll we do?

もし雨が降ってきたらどうしよう

②suppose[supposing] S+V~, S+V…「もし～なら、…だろうに」

(ex) Suppose[Suppposing] your father saw us together, what would he say?

君の父さんが僕達が一緒にいるのを見たら、なんて言うだろう

㊦ ポイントは以下の3つ。

1. 「supposed (that) S+V～」という形はない。

2. 「Suppose (that) S+V～」は命令文なので、基本的に文頭で用いる

3. 仮定法で使うこともある。つまり事実に反する仮定をする場合、後続の節の時制は仮定法における時制の使い方と同じになる。

(ex) Suppose you were President, what would you do?

もし君が大統領だったらどうしますか

③be supposed to do[彫]～

1. 「～すると思われている」

(ex) He is supposed to be innocent. 彼は無罪だと思われている

=It is supposed that he is innocent.

2. 「～するはずだ、～することになっている」

(ex) You are not supposed to smoke in this room.

この部屋では禁煙になっている

㊦ 上例のように否定文で用いることが多い。

3. 「～すべきだ」「～しなければならない」

(ex) Everybody is supposed to observe traffic regulations.


誰もが交通規則を守らなければならない

●suspect について。

2つの「疑う」。suspect と doubt の使い分け方

suspect と doubt はどちらも「疑う」という意味で区別がつきにくい。これを一発で見極められるコツが以下だ。

①doubt

 **doubt** は **don't think** (「～でないと思う」) と同じ。この同じ d つながりになるところを引っ掛かりに覚える。

ちなみに **don't doubt** は **think** (「～だと思う」) と同じ。

②suspect

 **suspect** は **think** (「～だと思う」) と同じ。

サスペクト に スィンク と、同じ「さ行」つながりになるところを引っ掛かりに覚える。

ちなみに **don't suspect** は **don't think** (「～でないと思う」) と同じ。

練習問題をやってみよう。以下の空欄にはどちらの「疑う」が入るだろうか。

(a) 「彼は自分がだまされたのではないかと疑った」

He () that he had been deceived. deceive A:「Aをだます」

(b) 「彼が明日ここに来るのは疑わしいものだ」

I () that he will come here tomorrow.

正解:(a)suspected ※「(だまされた)思った」ということ。つまりthinkに通じる。

(b)doubt ※「(来るとは)思わない」ということ。つまりdon't thinkに通じる。

●temper について。

〇〇-tempered

〇〇-tempered で「〇〇な気質の」という意味になる。short-tempered は「短い気質の → 短気な、怒りっぽい」となる。quick-tempered, hot-tempered, ill-tempered, bad-temperedで言い換えられる。bad-tempered の場合、「機嫌が悪い」という意味にもなる。good-tempered は「穏やかな、温厚な、気立てがいい」。

●tender について。

tender には「微妙な」という意味もある。また「(肉が)柔らかい」という意味もある。テンドーロインは「ヒレ肉」とも言うが、赤身の柔らかい肉のことだ。

●terror について。

「テロ、テロリズム」から類推してもいい。実際 terror にも「テロ(行為)、テロリズム」という意味がある。それを行う者は terrorist だが、これは「テロリスト」でおなじみ。

(動)terrify:~を恐れさせる、怖がらせる

(形)terrible:ひどい、恐ろしい

(ex) She screamed with terror watching the movie.

映画を見ながら彼女は恐怖のあまり悲鳴を上げた

●thief について。

いろいろな「泥棒」

①thief…「こそどろ」

②burglar…「特に夜間に他人の家に侵入するどろぼう」

③mugger…「路上で(しばしばナイフ・ピストルなどの武器を用いて)金品を脅し取る強盗」

●trace について。

trace は「たどる」から転じて「①～をつきとめる ②～の出所を明らかにする ③～を見つけ出す」という意味にもなる。また名詞として「①痕跡、名残り ②(足)跡」という意味もある。

●treat について。

treat には「物を(化学薬品を用いて)扱う → 物を(化学薬品などを用いて)処理する」「人を温かく扱う → 人をもてなす、歓迎する」という意味にもなる。また名詞として「①(思いがけない)楽しみ ②(めったにない)ごちそう ③おごり、おごる番」という意味もある。

(ex) The substance was treated with acid. その物質は酸で処理された
He treated me to ice cream. 彼は私にアイスクリームをおごってくれた
Her singing was a wonderful treat. 彼女の歌はととても楽しめた
That will be a great treat for the children.
それは子供たちにとって大きな楽しみでしょう
It is my treat now. 今度は私がおごろう

●wise について。

wise と clever

ちなみに clever も「賢い」という意味だが、こちらは「知的に頭がいい」という意味。clever の「ク」と「賢い」の「カ」が同じ「か行」つながりになるのを引っ掛かりにして覚えよう。wise は「人格的に賢い、知恵がある」。

wise は「良い」意味でしか使われないが、clever は「ずる賢い」といったような「悪い」意味でも使われる。smart も「頭がいい」という意味。「抜け目なく鋭い」ことを強調し、こちらも「悪い」意味で用いられることがある。

発音でも wise は口を丸くして柔らかな音。clever は「か行」。「か行は角が立つ → 悪い意味にもなる」と連想してもいい。smart の「ス」という息を吐き出す音は、ササっとなんでも才気ばしって抜け目なくこなしてしまうイメージを連想してもいい。

●unite について。

語源～uni

uni は「単一の、一つからなる」という意味の接頭辞。そこで unity は「一つになること → ①結束、一致 ②統一」となる。その動詞形が unite なのだ。他にも union は「一つであること → 団結、結合」。更に「一つになった集団 → ①団体、組合 ②同盟 ③連邦」という意味にもなる。labor[trade] union で「労働組合」。reunion は「再び(re)+一つになること(union) → 同窓会」。unify は -fy が「～にする」を表す接尾辞なので「一つにする → 統一する」となる。unicorn は「一つの(uni)+角(corn) → 一角獣」。unit は「一つのもの → ①単位 ②(まとまりのある)一団、部隊」。unisex は「一つの性別の → ①男女共用の ②男女の区別がない」。

●wound & injure について。

「傷つける」

特に①と②の違いが頻出だ。

- ①injure : [事故等で] (人の体)を傷つける =hurt
- ②wound : [武器、刃物等で] (人の体)を傷つける

- ③hurt : 1. [事故等で] (人の体を軽く) 傷つける
2. (精神的に) 傷つける
- ④damage : (物を) 傷つける、損害を与える
- ⑤destry : (建物を) 破壊する、(希望・計画等を) 台無しにする
- ⑥spoil : (価値を) そこなう、駄目にする、(人間を) 甘やかす

このレベルでおさえておきたいその他の語

Part I

1. across 「～を横切って[った所に]」(前)(副)

アクロス

あくろ

「悪路すいすい横切って」と覚えよう。

📖 悪路もすいすい横切ってレースに優勝(^_^)v …そんなイメージ。

(語)「～の端から端までを横切って → ～中に[で]」といった意味にもなる。

(ex) He sailed across the Pacific by himself. 彼は一人で太平洋を船で横断した

2. afraid 「恐ろしい、怖い、心配な」(形)

アライド

「あ～ふるえどうしても怖いし止まらない」と覚えよう。

📖 緊張の合格発表。あ～見るのが怖くて震えが止まらない(T_T)/…そんなイメージ。

(語)be afraid of A: Aが怖い、心配だ

(ex) He had nothing to be afraid of. 彼には何も恐れるべきものはなかった

3. almost 「(あと)もう少しで、ほぼ」(副) =nearly

オルモスト

「オレもう少しでできそう」と覚えよう。

📖 あともう少しで数学の難問が解けそう…そんなイメージ。

(ex) He was almost drowned but fortunately rescued.

彼はもう少しで溺死するところだったが幸運にも救出された

4. although 「～だが、～けれど」(接)

オール^{ソウ}ヲ

「オール象^{ゾウ}だが…」と覚えよう。

📖 オール象ばかりだが、象使い(調教師)は?…そんなイメージ。

(語)although は接続詞用法のみだが、同じ意味の though は(however で言い換えられる)「しかしながら」という副詞の用法もある。though が副詞の場合、カンマで区切られるので、それが目印になる。

(ex) Although (he is) still young, our son can tell rihgt from wrong.
まだ幼いけれど、うちの息子は善悪の判断ができる

5. ant

アント ^{あり} 「蟻」(名)

「餡とパンに^{あん}アリがあっ…(;o;)」と覚えよう。

📖 せっかく食べようとテーブルに置いといたあんパンにアリがあっ…!

(ex) When yung, I used to work like an ant.
若い頃はアリのようにせっせと働いたものだった

6. beside 「①～のそばに[で・の] ②～と比べると(=compared with～)」(前)

ビヤド

📖 「近く(by)+横・脇(side) → 横[脇]の近くに → ～のそばに[で・の]」となる。

(語)beside the mark[point]: 的外れの
beside oneself: 我を忘れて

(類)besides:(副)おまけに
(前)①～に加えて ②～を除いて

(ex) The castle stood beside the river. その城は川のそばに立っていた

7. beyond 「向こう側に[へ]」(前)(副)

ビョンド

「ビョ～ンと向こう側に飛んでった」と覚えよう。

📖 4番バッターの放ったボールが観客席へビョ～ンと飛んでった…そんなイメージ。

(語) beyond は比喩的に「(程度・可能性・数量などが)～を越えて、よりすぐれて、～の及ばない」という意味にもなる。

(ex) My house is beyond the hill. 私の家は丘の向こうにある
Things got beyond control. 事態は收拾がつかなくなった

8. both 「両方とも(の・に)」(代)(形)(副)

ボス

「坊さん両方知り合いです」と覚えよう。

📖 親戚のお葬式にやってきた坊さんは、偶然両方とも私の知り合いだった…そんなイメージ。

(類) either: ①どちらか一方 ②どちらも
neither: 両方とも～ない ☞ either の否定形。

(ex) Both her parents are dead. 彼女の両親は2人とも死んでいる
Both are alive. 2人とも生きている

9. each 「それぞれ(の・に)」(代)(形)(副)

イチ

「いちいちそれぞれに文句つけないで!」と覚えよう。

📖 母さんの料理に口うるさく文句つける父さんに向かって母さんが一言…そんなイメージ。

(ex) Each has his own merits. 各自長所がある

Each boy won a prize. どの少年も賞をとった

10. else 「別の[に]、他の[に]」(形)(副)

エルズ

「得るすべもなく **別の**を探す」と覚えよう。

📖 欲しかったが値段が高すぎて(@_@; …そんなイメージ。

(語) or else: さもないと、でなければ =or, otherwise

(ex) Is there anything else I can do for you?

ほかに何か私にできることがありますか

11. fingerprint

フィンガープリント 「指紋」(名)

📖 「指(finger)+焼き付けられた印(print) → 指に焼き付けられた印 → 指紋」となる。

(ex) The criminal must have wiped off[away] his fingerprints.

犯人は指紋をふき取ったに違いない

12. Greek

グreek 「①ギリシア人 ②ギリシア語」(名) 「ギリシア(人・語)の」(形)

「グリークラブの **ギリシア人**」と覚えよう。

📖 グリークラブ(男性合唱団)になぜか所属するギリシア人留学生をイメージ。

(語) It's (all) Greek to me. それは私には全くちんぷんかんぷんだ

(名) Greece: ギリシア

(ex) Have you ever read the Greek myths?

あなたはギリシア神話を読んだことはありますか

13. journey 「旅行」(名)

ジャーニ

「じゃあに〜♡ **旅行**に行ってきます」と覚えよう。

👉 ラブラブカップル、結婚式場からそのまま新婚旅行へ出発…そんなイメージ。

(ex) He set out on a journey to Canada. 彼はカナダ旅行に出かけた

14.

lie と lay / rise と raise の覚え方

(1) lie と lay。

lie は「横たわる、ある(いる)」。lie(ラ^アイ)の「ア」と「横たわ^ある、^ある」の「ア」を、(おなじ「ア」つながりになるのを)引っ掛かりにして覚えよう。

※lie の活用は lie - lay - lain - lying。

lay は「〜を横たえる」。lay(レ^エイ)の「エ」と「横た^える」の「エ」を(おなじ「エ」つながりになるのを)引っ掛かりにして覚えよう。

※lay の活用は lay - laid - laid - laying。こちらは say, pay と活用パターンが同じなので覚えやすいはず。

それから lay には「(卵を)産む」という意味もある。

(ex) Our hens lay a lot of eggs everyday.

うちの雌鳥は毎日たくさん卵を産む

そして lie は「(自分が)横になる」のだから自動詞。lay は「(他者を)横にする」のだから他動詞、と覚えよう。

※lie には「嘘をつく」という(自動詞の)意味もあるが、これは lie to A(人)で「Aに嘘をつく」という語法で多くは用いる。この lie の活用は lie - lied - lied - lying。

(2)rise と raise。

rise は「上がる」。rise(ラ^アイズ)の「ア」と「上^あがる」の「ア」を、(おなじ「ア」つながりになるのを)引っ掛かりにして覚えよう。

※rise の活用は rise - rose - risen。

raise は「〜を上げる」。raise(レ^エイズ)の「エ」と「上^えげる」の「エ」を、(おなじ「エ」つながりになるのを)引っ掛かりにして覚えよう。

※raise の活用は raise - raised - raised。

そして rise は「(自分が)上がる」のだから自動詞。raise は「(他者を)持ち上げる」のだから他動詞、と覚えよう。

15. lightning

ライティング 「稲妻、稲光」(名)

🗿 これは稲妻のピカピカッと光るイメージと light の「光、明かり」という意味をかけて覚えてしまおう。

(類)thunder:雷鳴、雷(のような音)

thunderstorm:雷を伴う暴風雨、激しい雷雨

(ex) Lightning has struck the tower. その塔に落雷した

16.

2つの lower

形容詞の low(「低い」)の比較級は lower になる。意味は「(より)低い、低い方の」。

(ex) the lower animals 下等動物
the lower classes 下層階級

これ以外に lower という動詞があるから注意。「(数量などを)減らす、(価値などを)下げる」という意味になる。

(ex) I lowered the volume of the radio. ラジオのボリュームを下げた

17. mere

ミーア 「①単なる、ほんの(～にすぎない) ②全くの」(形)

「ミーは単なる付録ですから」と覚えよう。

㊦ 友達のオーディションに付き合って会場に来たら関係者に呼び止められ、一言…そんなイメージ。

(語)特に強調する場合には *merest* となることもある。

(副)*merely*:ただ(～だけで)、単に(～にすぎない)

㊦ *only* の格式張った表現。

(ex) Don't get angry with him. He is still a mere child.

彼に腹を立てるな。彼はほんの子供だ

18. misunderstand

ミスアンダースタンド 「～を誤解する」

㊦ 「誤って(*mis*)+理解する(*understand*) → 誤解する」となる。

(名)*misunderstanding*:誤解

(ex) I'm afraid you misunderstand my intention.

あなたは私の意図を誤解しているようだ

19. overnight

オヴアーナイト 「①夜通し、オールナイトで ②一夜にして、急に」(副)

㊦ 「はじめから終わりまでを覆って(*over*)+夜(*night*) → 夜通し」となる。

(語)注意したいのは *overnight* は副詞ということ。She became famous overnight.(彼女は急に有名になった)のように用いる。

(ex) Since I missed the last train, I stayed overnight at his house.

終電に乗り遅れたので彼の家に一泊した

20. overseas

オヴアーシーズ 「海外の[へ・に]」(副)

㊦ 「～を越えて向こうへ(*over*)+海(*seas*) → 海に向こうへ越えて → 海外の[へ・に]」となる。

(語)overseas は形容詞または副詞であり、名詞ではない。go to overseas などとは言えない(go overseas という)。

(ex) He was sent overseas by the organization.
彼はその組織により海外に派遣された

21. piece 「(ひとつのまとまりの)一部分、1片、(1そろいになったもののうちの) 1つ」(名)
ピース

これはジグソーパズルの一つ一つのパズルを「ピース」というので、そこから意味をつなげよう。

(語)a piece of A:一つのA
a piece of cake:簡単な仕事
to[in・into] pieces:バラバラに(なって)

(ex) She swept up the pieces of glass and cleaned the room.
彼女はガラスの破片をきれいに掃き取って部屋を掃除した

22. rather 「①むしろ ②かなり ③それどころか」(副)
ラザ

「ラザニアよりむしろ…」と覚えよう。

👤 「今日の夕飯はラザニアよ」と母さんが言うと、こってり料理が苦手な父さんは「ラザニアよりむしろ…」と言って口ごもった…そんなイメージ。

(語)rather A than B: BというよりむしろA =A rather than B
would rather do[原形]~ (than do[原形]…) : (…するよりはむしろ)どちらかというところ
したい

(ex) The meeting was rather a failure. 会合はむしろ失敗だった

23. ready 「準備が来ている」(形)
レディ

これはよくアーティストがコンサートなどでファンに向かって「アーユーレディ (Are you ready)?」と言ったりする。要するに「準備は出来ているかい?」と言っているのだ。そこから類推しよう。

(語) be ready to do[願]~: ①~する覚悟[準備]が出来ている ②喜んで~する ③今にも~するところだ

(ex) She was just ready to go when someone knocked on the door.

彼女がちょうど出かけようとしていたときに誰かがドアをノックした

24. run 「①走る ②(店・会社などを)経営する」(動)

ラン

①は(カタカナ英語の)「ラン」が同じ意味で用いるのでわかりやすい。②について。run の『核』のイメージは「~を(ある方向に止まることなく素早くなめらかに)動かす[動く]」。「会社・店を(利益を追求するという方向・目的に向かって、停滞することなく)動かす」ということ。

(ex) My uncle runs a karaoke bar. 叔父はカラオケバーを経営している

25. squirrel 「リス」(名)

スクワラル

「救われる リス 幸運な」と覚えよう。

🐿 木から落ち人に救われた幸運なリス。今じゃ町の人気者…そんなイメージ。

(ex) Squirrels are nesting in the tree in my back yard.

裏庭の木にリスが巣を作っている

26. uncover

アンカヴァー 「ふた[覆い]を取る」(動)

🐿 「反対の動作(un)+覆い隠す(cover) → ふた[覆い]を取る」となる。

(語) 比喩的に「(秘密などを)暴露する、打ち明ける」という意味にもなる。


(ex) The newspaper uncovered the scandal of the company.

新聞はその会社のスキャンダルをすっぱ抜いた

27. whether 「①～かどうか ②～であろうとなかろうと」(接)

フェザ-

「フェザーかどうか調べる」と覚えよう。

 買ったジャケットが本当にダウンフェザー100パーセントか調べた…そんなイメージ。


(語) whether の2つの意味の見分け方は、whether節が名詞節(S・O・Cになっている)なら「～かどうか」、副詞節(S・O・Cになっていない)なら「～であろうとなかろうと」となる。それから whether to do[願]～で「～すべきかどうか」となる。

(ex) I asked her whether she would come to the party.

私は、彼女にパーティに来るつもりかどうか尋ねた

28. wildlife

ワイルドライフ 「野生動物」(名)

 「野生の(wild)+生き物(life) → 野生動物」となる。

(ex) We must preserve wildlife in this island.

この島の野生生物を保護しなければならない

Part II

1. improve 「～を改善[良]する、向上させる、(価値などを)高める」(動)

インプルーヴ

④ im は enに通じる。en は「～を与える」という意味の接頭辞。prove は profit(利益)に通じる。つまり「利益(prove)を与える(im) → 改善[改良]する、向上させる」となる。

(ex) She improved his skills. 彼女は腕を上げた

I need to improve my English. 私はもっと英語がうまくなる必要がある

(名)improvement:改善[良]、向上

2. find 「～を見つける、～だとわかる、～と思う」(動)

ファインド

④ find は語法をしっかりおさえない基本動詞。

① [SVO] 「Oを見つける、Oだとわかる[思う]」

※Oには名詞、that節などがくる。

(ex) I found this book by chance. この本ををたまたま見つけた

I found (that) she was honest.

(会ってみたら)彼女は正直な人だとわかった

② [SV₁ O₂] 「O₁(人)にO₂(物)を見つけてあげる」

(ex) Will you find me my glasses?

ぼくのメガネを見つけてくれませんか

③ [SVCC] 「OはCだと思う[わかる]」

※Cには「形容詞」「分詞」などがくる。

(ex) I found it impossible to carry out the plan.

その計画を実行するのは不可能だと思った

3. experiment 「実験(する)」(名)(動)

イクスペリメント

👁 この語は experience(経験) と語源が同じ。「経験」は「試み」に通じる。「試みてみる こと → 実験」となる。

(ex) He proved it by experiment. 彼はそれを実験で証明した
They experimented on animals. 彼らは動物実験をした
※動詞の場合[iksperəment(イクスペラメント)]と発音する。

(形)experimental:実験(用)の、実験に基づく

4. species 「(生物の)種」(名)

スピーシーズ

(ex) the human species 人類
an extinct species 絶滅した種

5. general 「①全般的な ②一般的な」(形)

ジェネラル

👁 プロ野球でゼネラルマネージャーと言えば、選手の補強からチームの運営・経営まで全般を統括する責任者のこと。

(ex) a general idea 概念、大まかな考え
The rain was general. 雨は全国的に降った

(語)in general:概して、一般的に

(語)general には名詞で「将軍」という意味もある。

6.

prove の語法

(1)他動詞の prove

①[prove+O(名)] 「Oを証明する」

(ex) She proved that I was innocent.

彼女は私が潔白であることを証明してくれた

②[prove+O(名) (to be/ as) C(形・分)] 「OがCであると証明する」

(ex) This letter proved them (to be) still alive.

この手紙は彼らがまだ生きていることを示していた

[prove oneself to be C(名・形・分)]① 「(結果として)～になる」

② 「自らが～であることを証明する[示す]」

(ex) He proved himself (to be) a capable lawyer.

彼は有能な弁護士になってみせた

(2)自動詞の prove

[prove (to be) C(名・形・分)] 「Cであると判明する」

「(結果として)Cだとわかる[となる]」

※turn out (to be) C と言い換えられる。

(ex) The new machine proved (to be) useless.

新しい機械は役に立たないことがわかった

7. prefer 「～の方を(より)好む」(動)

カ~~7~~-

會 「pre(前に)+fer(運ぶ) → 好む」となる。

(ex) I prefer spring to winter. 冬より春のほうが好きだ

(語)prefer A to B: BよりAを好む ㊦ 「よりも」の意味で than を使わない点に注意。

(名)preference: 好み

(形)A be preferable to B: AはBより好ましい

語源～fer

fer は「運ぶ」という意味の語幹。prefer は「自分の前に(pre)+好きな物を運んでくる(fer) → 好きなものを自分の前に持ってくる → ～を好む」となる。

infer は「自分の頭の中に(in)+考えを運び入れる(fer) → 推論(測・量)する」となる。infer の名詞形は inference で「推論(測・量)」。

defer は「延期する、先のばしにする」。「分離して遠くに(de)+運び出す(fer) → 予定から遠ざける → 延期する、先延ばしにする」となる。

transfer は「別の場所に(trans)+運ぶ(fer) → (他に)移動する、運ぶ」となる。

prefer は prefer A to B で「BよりもAを好む」という語法が頻出。形容詞形は preferable。A is preferable to B で「AはBより好ましい」。それから prefer 関連は「～よりも」の意味で to を用い、than を使わないので注意。

8. aspect 「①(物事の)側面 ②観点、様相」(名)

アスペクト

🔍 spect は「見る」を表す語幹。「ある一つの(a)+見方(spect) → 側面、観点」とイメージしよう。

(ex) The situation has taken on a new aspect.
情勢は新しい局面を迎えた[様相を帯びた]

9. therefore 「それ故、だから(=so, accordingly, consequently)」(副)

セフォー

🔍 「there(それ =that) + for (…のために) → それ故」となる。

(ex) I've never been to UK; therefore I don't know much about it.
イギリスへは1度も行ったことがない。だからよく知りません

10. identify 「①～を特定する ②～を…と同一視する」(動)

アイデンティファイ

🔍 identify の『核』のイメージは「(～を)…と同じと見る」。

これは IDカード(身分証明証)というカタカナ英語も利用しよう。身分証明証というのはそれが、その人と同じである(と見る)ことを証明する書類やカードのこと。

(ex) She identified her fountain pen by the flaw on it.

彼女は付いている傷で自分の万年筆だと確認した

(核) 「(～を)…と同じと見る」

(名) identity: 身元、正体

(形) identical: 同じ、よく似た

11. divide 「[divide A into B] AをBに分ける、分割する」(動)

ディヴァイド

👤 「デバイダ」をヒントにしよう。デバイダとは、コンパスの両側とも針の形状をした、線などを均等分割したりする際に用いる器具。

(ex) She divided the cake into three equal parts.

彼女はそのケーキを3等分した

(名) division: ①分割 ②部門 ③割り算

12. characteristic 「特徴(的な)」(名)(形)

カククリシク

👤 よく「キャラが濃い」などといったりする。非常に特徴的で、印象が強く焼きつく人などに対して用いる。

(ex) His main characteristics was intellectual clarity and honesty.

彼の主な特徴は知的明せきさと誠実さだった

13. phenomenon 「現象」(名)

フェノメノン

👤 昔、イタリア映画に「フェノミナ」というのがあった。少女が起こす超常現象についての映画だった。

またアメリカ映画に「フェノミナン」というのがあった。中年の男が持つ能力が起こす不

可思議な現象についての映画だった。

また、ファッションブランドに「フェノメノン」というのがある。

(ex) A traffic accident is a daily phenomenon. 交通事故は毎日起こっている

(複)phenomena

14. specific 「①特定の ②明確な、具体的な」(形)

スペシフィック

㊦ specific の speci は species(種・種類)に通じる。「ある種だけの → 特定の」となる。

(ex) You must pay a specific sum of money.

ある特定の金額を払わなければならない

(語)A is specific to B: AはBに特有だ

15. nevertheless 「それにもかかわらず(=nonetheless, however)」(副)

ネヴァーザリス

㊦ 「never the less (それだけ少ないことは決してない) → それにもかかわらず」という逆接語となる。

(ex) He was told to stay home, but he went there nevertheless.

彼は家にいるように言われたが、それでもそこに行った

16. thereby 「それによって」(副)

ゼアバイ

㊦ 「there(それ=that)+by(～によって) → それによって」となる。

(ex) I signed the document, thereby gaining control of the company.

私は書類に署名し、それによってその会社の支配権を手に入れた

present は多義語だが、その根っこ(『核』)のイメージをつかめば素早くマスターできる。そのイメージとは「**目の前**にある(存在している)」ということ。これがわかれば、

- ① 「**プレゼント**」というのはそれを贈られる人の前に置かれる(つまり「ある」)もののこと。
- ② 「**現在**」というのは私達の目の前に置かれている現実(時間)のこと。
- ③ 形容詞の「**現在の**」という意味も、「目の前にある」というところから派生したにすぎない(「現在の仕事 = 今日の前に置かれている仕事」)。
- ④ (同じく形容詞の)「**存在している**」という意味も「今日の前にいる」ということ。

動詞となった場合は「目の前に置く」つまり「**(目の)前**に出す」「**外**に出す」という意味で一つにつながってくる。

- ① 「**(プレゼントを)贈る**」も「贈り物を人の前に出す」こと。
- ② 「**(問題を)引き起こす**」も「(問題を)表面化させる、つまり人の目の前に出す」こと。
- ③ 「**(表情を)表す**」も「(気持ちを)顔に、つまり人前に出す」こと。
- ④ 「**提案する**」というのも「(考え・意見などを)人前に出す」こと。
- ⑤ 「**上演する**」というのも「(劇を)人前に出す」こと。

なお present の名詞形は presence で「①存在 ②出席 ③面前」。

18. latter 「[the latter](二者のうちの)後者」(名) 「後者の」(形)

ラ-

會「順番がより late(後の) → 後者の」となる。

ちなみに「時間的により late(後の)」は later。

(ex) Cf these two plans, I preferred the latter to the former.

この2つの計画のうち、私は前者より後者の方が好きだった

(反)the former:前者(の)

19. translate 「①[translate A into B]AをBに翻訳する ②～に変える」(動)

トランスレイト

🔍「trans(別の所へ)+late(運ぶ) → ある言葉を別の言葉へと運ぶ → 翻訳する」となる。

(ex) I translated an Italian novel into English.

イタリアの小説を英語に訳した

(名)translation:翻訳

20. cognitive 「認知の、認識の」(形)

コグニティヴ

🔍cogni- は「認識・認知」を表す語幹。-ive は「～の傾向[性質]がある」という意味の接尾辞。

cogni- については recognize から類推してもいい。recognize は「ある人・物を見て過去の記憶ともう一度(re)照らし合わせて+認識する(cognize) → (その人・物が誰・何だか)わかる」となる。

(ex) The drug affects cognitive abilities.

この薬は認識能力に影響を与える

(名)cognition:認識(作用)、認知

(動)cognize:認識する

21. primary 「①主要な ②第一の ③初等の」(形)

プライマリ

🔍オペラの「プリマドンナ」から類推しよう。プリマドンナとは、主役の、つまり第一の女性歌手。

(ex) His behavior was my primary concern. 彼の行動は私の最大関心事だった

(副)primarily:①主として ②初めに

語源~prim / prin

prim / prin は「一番の」を表す接頭辞。これは(イタリア語だが)「プリマドンナ(prima donna)」が「(オペラの)主役女性歌手」を意味するところからも、割と類推しやすいはず。

英語では、たとえば prime は「最も重要な、第1の、最上の」という意味。principle は「一番大切[根本]のもの → 原理、原則」。principal は「主要な、第一の」「校長」という意味になる。他にこのような語の例をいくつか挙げてみよう。

primitive	prim+itive[形容詞語尾]	→ 最初の	⇨ ①原始の ②原始的な、未開の
prince	prin+ce(=cip)	→ 1番を取る人	⇨ 王子
princess	prin+c+ess(女性)	→ 1番の女性	⇨ 王女
primary	prim+ary[形容詞語尾]	→ 第一位の	⇨ 主要な、第一位の、根本の
prirate	prim+ate[者]	→ 第一の者	⇨ 霊長類
prime minister	prime+minister[大臣]	→ 第一の大臣	⇨ 総理大臣、首相

※そうは言っても principle(原理)と principal(校長)は覚えづらい。これについてはそれぞれの最後から2つ目の綴りが principle の方は l、principal の方は a になるところを引っ掛かりにして覚える。つまり l は「エル」だ。これと「げんり」の「り」が同じ「ら行」つながりになるのを引っ掛かりにする。a は(ローマ字読みでは)「ア」。校長は学校組織の「頭(あたま)」だ。

👤そして校長は、学校で"第一の""主要な"先生だ。

この"アつながり"を引っ掛かりにして区別がつけられるようになろう。

22. disappoint 「①(人を)を失望させる ②(期待などを)くじく」(動)

ディザポイント

「ディスられポイント下がり失望し」

④ ネットでディスられ、人気ポイントが下がり、アイドル失望、落胆！…そんなイメージ。

⑤ 「dis(否定)+appoint(指名する) → 指名しない → 失望させる」となる。

(ex) The result disappointed us. 結果は我々を失望させた

(名)disappointment:失望、落胆

23. interpret 「①～を解釈する ②通訳する」(動)

インタ_ラプリト

⑤ inter が「間の[で]」を表す接頭辞。

「間で(inter)+仲介する(pret) → 通訳[解釈]する」となる。

(ex) He interpreted the difficult sentence rightly.

彼はその難しい文章を正しく解釈[説明]した

She interpreted what they were saying into English.

彼女は彼らの言うことを英語に訳した

(名)interpretation:①解釈 ②通訳

interpreter:①通訳者 ②解釈者

24.

differ[be different] の語法

differ は「異なる」という意味の動詞で be different で言い換えることができる。でこの differ[be different] の後には、from と in どちらもくることがあり得る。その使い分けが以下。

①A differ[is different] from B はAとBは同種[同質]のもの同士になる。

(ex) My opinion is different from your opinion.

ボクの見解は君の見解とは異なる。

確かに上の英文のAにあたる my opinion と、Bにあたる your opinion は(中身は異なるとはいえ)同じ「意見」という点では同種[同質]なるもの同士だ。

②A differ[is different] in B はAとBは異種[異質]のもの同士になる。

(ex) People are different in their views of life.

人は人生観が異なるものだ

確かに上の英文のAにあたる People と、Bにあたる their views of life は(共通点が全くない)まさに異種[異質]なるもの同士だ。

25.manufacture 「製造(する)」(動)(名)

マニフアクチャー

⊕ manu は「手」、fact は「作る」を表す語幹。「手で作る」が元々の意味。

(ex) The cars which were manufactured in this factory are mostly exported cverseas.

この工場で生産された自動車の大半は海外へ輸出された

26.district 「①地区 ②行政区」(名)

ディストリクト

⊕アメリカの首都であるワシントンの所在地を「ワシントンDC」という。

このDCとは、District of Columbia(コロンビア特別区)の略。

(ex) a school district 学区

an election district 選挙区

27.procedure 「手続き、(一連の)措置」(名)

プリアージャー

⊕ proceed(進行する)の類語と考えるといい。-ure は、動作・結果などを表す名詞語尾。

(ex) They forgot to follow the regular procedure.

彼らは正規の手続きを踏むのを忘れた

28. opponent 「①(試合・論争などの)相手 ②反対者」(名)

アピナント 「反対する、対立する」(形)

會 「oppose(反対する)+-ent(行為者) → 反対者・相手」となる。

(ex) I defeated my opponent in the debate. 私は議論で相手を負かした

29. reputation 「評判」(名)

レビューション

「レビュー多少評判に影響す」と覚えよう。

㊦ 新作のアマゾンレビュー(書評)の評価が低く、その作家の評判を落とした…そんなイメージ。

(ex) He has a high reputation as a skillful lawyer.

彼は腕のいい弁護士として評判が高い

30. capable 「能力がある、できる」(形)

ケパル

會 「cap(つかむ=catch, capture)+able(できる) → ~をつかむことができる → 能力がある」となる。

(ex) Dogs are capable of hearing distant sounds.

犬は遠くの物音を聞きつけることができる

(語)be capable of doing~:~することができる

(名)capability:能力

capacity:収容能力

31.nuclear 「核の、原子力の」(形)

ニュークリア

會「核兵器」のことを nuclear weapon とする。近年では略して nuke(ニューク)と言ったりする。

(ex) The residents objected to construct a nuclear plant.

住民は原子力発電所の建設に反対した

32.contrary 「反対(の)」(形)

コントラリ

會「contr(反対)+ary[形容詞語尾] → 反対(の)」となる。

contradict は「(～に)反対する、矛盾する」。

(ex) This is quite contrary to what I want.

これは私の欲しい物とまるっきり反対だ

(語)on the contrary:とんでもない、それどころか

to the contrary:それとは反対の趣旨で(の)、それとは逆に

33.hemisphere 「半球」(名)

ヘミスフィア

(ex) the Eastern Hemisphere 東半球

(源)hemi は「半分の」を意味する。sphere は「球(体)」を意味する。

34.attribute 「[attribute A to B]AをBのせいにする」(動)

アトリビュート

(ex) She attributed her failure to bad luck.

彼女は自分の失敗を運の悪さのせいにした

attribute の語法

語源は「at(～に)+tribute(原因を割り与える)」で、attribute A to B の形でよく用いられる。その場合「Aの原因をBに割り与える」が根っこ(『核』)のイメージになるのだが、AとBにどんな内容が来るかで和訳も調整する必要がある。具体的には以下のようなになる。

attribute A to B
 [結果] → [原因]
 ⇒ 「A(結果)をB(原因)に帰す[Bのせいになる]」
 [性質] → [所有者]
 ⇒ 「A(性質)がB(所有者)にあると考える」
 [作品] → [作者]
 ⇒ 「A(作品)はB(作者)のものであると考える」

(ex) He attributed his success to the support of his wife.

彼は成功したのは奥さんの支えのおかげだと考えた

I attributed feelings of jealousy to her.

私は彼女が嫉妬心を持っていると考えた

The piece is usually attributed to Mozart.

この曲は普通モーツァルトの作とされている

35.prefecture 「県、府」(名)

プリフェクチャー

會 「prefect(長官)+ -ure(機関) ⇒ 長官の事務所」が語源。

(ex) I was born and brought up in Aichi prefecture.

私は愛知県で生まれ育ちました

36. geography 「①地理(学) ②地形」(名)

ジグラフィ

會 「geo(土地・地面[形])+graphy(記述したもの) → 地理」となる。

(ex) Their task was to study the geography of the Antarctic.

彼らの仕事は南極大陸の地勢を調べることだった

(形)geographical:地理(学)的な

(類)geographer:地理学者

語源～geo

geo は「地球・面」を表す語幹。これを含む語の例をいくつか挙げてみよう。

※ground(地面)、gravity(重力)、magnificent(壮大な)、grow(成長する)、grand(雄大な、重大な)、gigantic(巨大な)、gorgeous(豪華な)など、g というつづりを含む語は「地・下」「重」「大」「力(強さ)」を連想させるものが多い。

geometry 「幾何学」

※「geo(地球)+met(測量する)+ry(術) → 土地を測量する術」から。

geochemistry 「地球化学」

geology 「地質学」

※「geo(地球)+logy(学) → 地球に関する学問」から。

geothermal power generation 「地熱発電」

※therm(o) は「熱」という意味。ちなみに「プルサーマル」は、プルトニウムからの熱を発電に利用しようというもの。

37. administration 「①政府(機関) ②経営、管理(部) ③行政」(名)

アドミニストリ~~イ~~ション

會 「[ad-(…に)+ -minister(仕える)+ tion[名詞語尾] → (国政など)に仕えること・機関」となる。

(ex) business administration 事業経営
the present Administration 現政府[政権]

38.will 「意志」(名) ※助動詞の will 以外。
ウル

會助動詞の will が「～するつもりだ」と、「意志」を表すので類推しやすい。

「死者の意志 → 遺言」という意味にもなる。

この will は動詞として「～したいと思う(=want)」という意味にもなる。この will の分詞形が willing で、be willing to do[願]～は「(自ら)進んで～したいと思っている」。

willing の反意語が unwilling で、be unwilling to do[願]～は「～する気がしない」。
be reluctant to do[願]～で言い換えられる。

(ex) Where there's a will, there's a way. 意志ある所に道あり

※ことわざ。

The children were willing to work for their parents.

子供たちは両親のために喜んで働いた